

令和4年度阿南市地域公共交通活性化協議会 第1回会議 議事録

日時 : 令和4年5月19日(木) 14:00~15:15

場所 : 阿南市役所3階 303会議室

出席者 : 阿南市 副市長 山本 俊也  
阿南市 特定事業部長 倉本 正樹  
阿南市 保健福祉部長 吉岡 泰香  
徳島県次世代交通課 課長代理 宮島 課長補佐  
徳島バス(株) 企画管理部 副部長 東 孝行  
徳島バス阿南(株) 取締役社長 千本 寿史  
四国旅客鉄道(株) 徳島企画部長 山本 仁志  
伊島連絡交通事業(有) 代表取締役 粟田 一元  
四国地方整備局徳島河川国道事務所 副所長 山本 健司  
徳島県南部総合県民局(阿南) 県土整備部部長 三好 一生  
阿南市 建設部長 豊田 一郎  
阿南警察署交通課 課長 津山 裕典  
阿南市民生児童委員協議会 会長 丹生川 和彦  
阿南市セニアクラブ 会長 吉田 忠彦  
利用者代表 小川 美紀  
四国運輸局徳島運輸支局 首席運輸企画専門官(輸送・監査) 山本 美恵子  
四国運輸局徳島運輸支局 首席運輸企画専門官(総務・企画観光) 賀出 晴美  
阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 准教授 加藤 研二  
【事務局】(まちづくり推進課) 清原 課長、武田 課長補佐、西野 係長、  
下村 主事  
欠席者 : 毎日タクシー(有) 代表取締役 畠山 頼彦

議 事 :

- (1) 令和3年度阿南市地域公共交通活性化協議会事業報告及び会計報告について
- (2) 令和4年度阿南市地域公共交通活性化協議会事業計画(案)及び予算(案)について
- (3) パブリックコメントに関するご意見及び市の考え方について
- (4) 阿南市地域公共交通計画(案)について
- (5) その他

資 料 :【配布資料】

- ・ 令和3年度阿南市地域公共交通活性化協議会事業報告及び会計報告
- ・ 令和4年度阿南市地域公共交通活性化協議会事業計画(案)及び予算(案)
- ・ 阿南市地域公共交通計画(案)に対するパブリックコメントの「ご意見」と「市の考え方」
- ・ 阿南市地域公共交通計画概要版(案)
- ・ 阿南市地域公共交通計画(案)

## 1. 開 会

(山本副市長)【副市長あいさつ】

## 2. 議 事

### 議事1. 令和3年度阿南市地域公共交通活性化協議会事業報告及び会計報告について

(事 務 局)【令和3年度阿南市地域公共交通活性化協議会の事業報告及び会計報告についての説明】

(全 委 員)【質疑応答なし】

### 議事2. 令和4年度阿南市地域公共交通活性化協議会事業計画(案)及び予算(案)について

(事 務 局)【令和4年度阿南市地域公共交通活性化協議会の事業報告(案)及び予算(案)についての説明】

(全 委 員)【質疑応答なし】

(会 長) 特にご意見もないようですので、原案どおり承認させていただきます。

### 議事3. パブリックコメントに関するご意見及び市の考え方について

(事 務 局)【パブリックコメント・今後のスケジュールについて説明】

(全 委 員)【質疑応答なし】

#### 議事 4. 阿南市地域公共交通計画 (案) について

(事 務 局)【課題の整理や将来像の実現に向けた基本的な方針、重点施策、評価指標の説明を行った。また、前回からの変更点として、本編 130 ページの地域公共交通の分類と位置づけのところに、地域公共交通確保維持事業の補助対象路線についての記載を追加したことや、前回指摘のあった 153 ページの鉄道の目標値について、年間利用者数を指標として、コロナ禍以前の令和元年度実績を基準とし、人口減少率から算出した目標値を設定したことを報告し、全体の評価指標に対する注釈を追加したことを説明】

(委 員) 本編 137 ページと概要版 4 ページの重点施策に「利用状況に応じた効率的で利便性の高い運行を行います」とありますが、「需要に応じて路線ダイヤの見直しをして利便性の高い運行を目指します」ではないので、これは何か施策があるということなのか、もしくは、利用状況の多いところの便を増やすといったことなのか参考に教えてもらいたいです。

(事 務 局) 令和 2 年 10 月にダイヤ改正を行っており、今後についても毎年乗降調査を行い、結果に基づいて利便性の高い効率のいいダイヤに向けて行っていきたいということで掲載しています。

(委 員) 便利になるということですか。便数を増やすということですか。

(事 務 局) 便数を増やすとなると運転手の数やバスの台数等の問題で難しいところがありますので、ダイヤの時間等を変えて乗り継ぎを上手くいくようにして利便性を高めるということになります。

(委 員) 伊島から来ると連絡所にタクシーは来ますが、鉄道に乗って阿南駅へ行く人はおらず、ほとんどが自家用車で移動しています。橘駅まで歩いていくというのは高齢者では負担になるので、ナカちゃん号が来てくれたら助かるのといつも思っています。橘駅と連絡所の間で JRさんと連携ができればそのまま伊島まで渡ってこれるんだなと感じました。

(事 務 局) そういった色々な交通モードの連携についても、また検討していきたいと思っております。

(会 長) 阿南より以南では JRさんとバスさんが連携をして新しい取り組みをされていますが、事業間の連携の組み合わせの中で、効率性や利便性を考えていかなければならないと考えております。同じベクトルで成り立つものかどうかということはあるでしょうが、色々なかたちのものを皆さまにご協力いただきながら考えていければと思っております。

今後、市と交通事業者で緊密な連携を取っていきたいと考えておりますが、施策や市に求めることがありましたらご意見をいただきたいと思えます。また、重点施策⑨「乗継割引、運賃制度の検討」について、タクシーの助成チケットやバスのフリーチケットといった高齢者の足の確保ということで取り組まれている団体があり、我々もチャレンジする必要があると考えておりますが、交通事業者さんの観点から、気を付けてほしいことや要望等がありましたらご意見をいただきたいと思えます。

(委員) 2年ほど前に、徳島県からの補助金を活用して作成した一日オールフリー乗車券は多くの利用者が増えまして、12倍ぐらいの売り上げとなり人気商品となりました。徳島バスと徳島市営バスで使えますが、阿南バスではまだ使えないなどといった制限がありますので、阿南バスとどうしたらそのまま使えるようになるかの相談をしていきたいと思っています。

(委員) 各市町村でマイクロバスなどの事業をしている小単位のコミュニティが交通事業者の我々でもどこに何があるのかが分からないくらい増えてきています。そこで、スマート利用等の利便性の話となったときに、小規模なコミュニティは導入したくても、導入費や改修費といったコストの問題があり、資金投資していく体力がありません。なので、先ほどの徳島バスは導入しているが阿南バスは導入していないというのは体力面の関係ということです。こうしたシステムを導入していないのは全国で徳島県だけです。市や県だけではなく全国的に考えていかないといけない問題だと思います。例えば香川県や全国的にはSuicaが使えますが、徳島県では使えませんので、そういったことも含めて、利便性については運営していくうえでの課題の一つであると認識しています。

(委員) 乗り継ぎ割引や運賃割引については、政策的な割引が基本ではないかと思えます。私どもで言えば、身体障がい者割引といった割引は独自で行っていますが、高齢者も含めて他の方々の移動についてのご意見をよくいただきます。しかしながら、事業者だけの中でそれら全てを実施するのは非常に困難な状況になっていきますので、行政の方にもご検討いただけたら助かると思っています。それと、高齢者の移動という観点で言えば、タクシー、路線バス、そして鉄道という順番に利用しやすいモードになると思いますが、これまでよくあるのが自治体ごとの交通局や町内バスといったものが移動の基本になってくるので、どうしても補助対象というのがそれらの事業者に固定されているという現実があります。域内移動についてはそ

れでよろしいかと思いますが、少しこの域内を超えるような移動を確保するという観点では、鉄道もそれに加えていただけたら非常に連携がとりやすくなるのではないかと考えています。

(会長) 地域座談会の実施ということで、地域の皆さまにも将来の見通しといったことを説明した上で、認識を一緒に持っていただいて、どう参画、協力していただけるかということが大事になってくると思います。この辺りのことについて、ご意見やアドバイスをいただけたらと思います。

(委員) 住民の立場からすると、ここに書いてある計画は早く実現してほしいです。不便だから乗らないというように悪循環になっています。例えば、誰かの車を利用すれば 20,30 分でいけるところが 1 時間以上かかったり、バス停にトイレがないので、早く来て待っている高齢者の人が困ったりしています。また、便利な地区の人はいいですが、田舎からタクシーを利用すると医療センターまで片道 5,000 円近くかかります。医療センターへ行く人がバスや JR を乗り継いで行くというのも難しいですから、そういう事情も考えて少しでも解決していただけたらなと思います。

(委員) 計画に色々な目標値がありまして、人口減少することを大前提に書いてあるということですが、これが阿南市の限界なのかなと感じました。というのも、実際に公共交通を維持しようと思うと、この目標値では多分維持できません。本来であれば、今と同じだけの利用者でも赤字がでているので、今の路線を維持しようと思うと、この数字を最低限維持しなければなりません。ですが、人口減少するから目標値が下がっているとすると、今の路線を維持することが困難であるということで、阿南市としては、これが限界ですよというような数値にお見せしましたぐらいの感じにとられてもいいのかなと思います。そうならないようにどうするか考えることをやらなければなりません。計画に書いている施策をやっても中々上手くいかないということは、多分限界が近いのではないかと考えています。先ほどお話があったように阿南市さんだけの話ではなくて、四国ぐらいのレベルで何か考えないといけないところまで来ていると思います。IC を持っていないと不便というのは徳島県ぐらいかなと思いますので、やはり何をやるにしても、そういった不便さが解消しない限り新しいことができないというもどかしさがあります。先ほどもお話があったようにメンテナンスすると何百万かかるから体力が無いのでできませんということで、手を挙げないことで取り残されてしまい、実際に全国的になっても、未だに現金

を使うところが取り残されているという現状があります。先ほどお話いただいたように、フリーパスをすると利用者が増えるということなので、いかに便利だと思わせることが重要だと思います。そうすると、スマートフォンを見せると自由に乗れるという流行りの MaaS というのがありまして、いわゆるそのアプリを見せると市内や路線、交通機関を問わず何に乗っても自由というのがあります。フリーなので、徳島バスさんや JR さん、四国ですとことでんさんやとさでんさんでもそれを見せると乗れるというような利便性があると多分利用者は増えます。そういった話を阿南市から徳島県に、徳島県から国交省さんに持って行って、国交省さんが四国でやってみようかという話になると楽しいと思います。ただ、本当にしていかなないと、全国の地方都市の公共交通というのは間違いなく衰退していくというのは目に見えています。最近のテレビでも、JR 西日本さんでさえ、路線をどうするかという話を市町村にしているぐらいですので、大都会だけはある程度残ると想定できますが、それ以外のところは基本的にはもうどうしましょうかと、公共交通の事業者さんは言っているような感じになります。ですので、その人たちといかに結ぶか、協力するかということもまでもう時代は来ていると思いますので、その辺を含めて色々と施策を考える必要性が出てきています。ただ、ありがたいことに今回のパブリックコメントに 9 名の方からご意見があるということは、それなりに真剣に考えていただいている方がまだいるんだなと思っています。ですので、この方々からもう駄目でしょって言われ始めると本当に終わりになりますので、その方々からよくやりましたって言っていただけるように色んなことをやるというのが大事かなと思います。色々と制約はあるとは思いますが、国交省さんに上手く制度をやっていただけたと思いますし、JR さんとバスのチケットを連携したというのは画期的とは思いますが、それも含めて、四国から何か新しいものを生み出していただくようなぐらいの話になればありがたいかなと思いますので、是非よろしくお願いします。

(会長) 大局的な観点からご意見いただきましてありがとうございました。本市の計画として、まず阿南市のできることからやっていきたいと思っております。計画についてご議論いただきましたが、この計画をスピード感をもって早く実践していくというのが大事だと思っております。先ほど、事業計画で説明がありましたように、取組についてのアドバイスを皆さまからいただき、或いはこの場で連携を取りながら進めて行きたいと思っております。

ます。

また、これまでご議論いただいた本市の新しい公共交通計画につきましては、これを成案としてご了承賜りましてよろしいでしょうか。

(全 委 員)【異議なし】

## **議事 2. その他**

(会 長) その他についてですが、何かございますか。

(全 委 員)【意見なし】

## **3. 閉 会**

(事 務 局) 以上をもちまして、「令和4年度阿南市地域公共交通活性化協議会 第1回会議」を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上